

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		区民が地域づくりに参画しやすいしくみを作りたい！	品川区
アイデア名(注2) (公開)	昼とお茶でスポーツ観戦！		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	マッシュ&ルーム		
チーム属性(公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	4名		
代表者情報	氏名(公開)	村瀬 真琴	
メンバー情報		大金 浩二、安蒜 昭太、内山 航	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をする社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

高齢者・お年寄りが社会参画できる仕組みづくり（高齢者の孤独・孤立解消）

<解決アイデアの内容>

一言で言えば、スポーツバーのお年寄り版。

従来のスポーツバーは、若い人がスポーツイベントの際に盛り上がるイメージのため、どうしてもお年寄りは参加できません。そのスポーツバーのイメージを一新し、店内には畳が敷かれていたり、ドリンクにもお茶類を提供したりします。

従来のスポーツバーではアルコールを提供しますが、色々なお茶を提供します。中にはお茶の先生などおいて、その場でひいたお茶も飲めるような企画もします。お茶バリスト。

また、バリアフリー・畳のスペースを用意することで、参加しやすい環境にします。畳もそのままではあぐらや正座は膝にも負担となってしまうので、掘りごたつのようなイメージも想定。

店舗や店員側の人が必要になりますが、地元のお店や商店街のお店を借りるなどして、交流の機会としても活用します。商店街のシャッター通りも地元の活性化という点では課題のため、有効活用します。店員は学生などに依頼することで、学生にとっても社会経験が詰める場とし、また高齢者にとっても若い人と交流ができる場とします。

品川区提供のオープンデータに「公共施設」の情報があるので、公共施設を開催の場することも良いと考えています。

基本的にスポーツ観戦を想定した場ですが、学生アドバイザーなどがいてお年寄りにもわかるような解説をしてくれます。競技によってはお年寄りが若い人たちへ解説することもあるかもしれません。いずれにしてもそのようにお互いが教え学びあう機会も提供します。

もう1つ、現行のオープンデータで活用できると思われるのが、「観光情報（しながわ百景）」です。

この情報をもとに壁などに常に品川区の観光情報を表示しておき、タッチパネル等で操作すると詳細などが見れる工夫を施します。メインは高齢者の参画の機会の場合ですが、「畳やお茶」＝「和」のイメージを強く出すことで、在住外国人や訪日外国人の方のちょっとしたスポットとしても活用できると思っています。そこに観光情報を合わせて掲載しておく意味も出てきます。お年寄りが地元のことを話したり、その通訳を学生が引き受けてくれたりと、そのような交流が生まれることも考えています。

このアイデアで、そんな、優しさと世代間交流に満ちた場を作っていることを願っています。
ちょうどオリンピックも開催されますが、オリンピックの期間だけで盛り上がるような施策ではないと考えているので、一過性で終わることもありません。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

まず第1に、高齢化社会が進むにつれて高齢者・お年寄りの母数が増えることがあります。

高齢者の半数以上は、若い世代との交流に参加したいと思っているが、きっかけがないなどの理由で参加できていない現状があります。

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/gaiyou/s1_2_5.html

また、特に一人暮らしの高齢者や頼れる人が身近に高齢者は「生きがい」そのものを感じることが低い傾向にあります。

<https://www.minnanokaigo.com/news/kaigogaku/no96/>

そのため、ボランティア活動などへの参加動機として「自身の生きがいのため」という理由が多くを占めていますが、やはりきっかけがないから参加していない方も多く見受けられます。

生きがいを感じない・孤独なことから、孤独死も問題となっています。

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1_2_6.html

そのため、生きがいを感じる機会を増やすとともに、高齢者の孤立化を防止すべく、本アイデアを提案します。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の**大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその**解決策等**、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

まず店舗が必要になります。ただ、この店舗も一般的なお店として構えるよりは、例えば高齢者の住居の一角を提供したり、地元のお店や商店街の協力を得て、その時だけ畳を敷いてもらうなどの工夫をします。そうすることで、店舗費用が抑えられると同時に、高齢者と地元の人との関わりが増えます。そういった地元や商店街の協力者をまずはある程度集める必要があると考えています。

次に人ですが、これは学生の参加を促したいと考えています。ボランティアもしくは謝礼があってもいいですが、店舗での社会経験を体験できるとともに、若い世代と高齢者との交流が図れます。また、スポーツについて高齢者の方にわかりやすく説明する専用のスタッフも配置します。スポーツは交流のきっかけに過ぎず、高齢者にとっては関わり合いの方が大切なので。

地元や商店街と高齢者の関わり、学生と高齢者の関わり、このような機会を増やしていけると考えています。

特に大きくクリアしなければいけない制限や課題はないと考えていますが、まずは共感して場所を提供してくれる地元区民や自治体の協力が必要になってくると考えています。

運営主体を作り、そこを通じてイベントの発信や開催場所の調整、人の確保などを行います。